

としょかんがすすめるなつやすみのほん（１・２年向き）

『それしかないわけないでしょう』

ヨシタケシンスケ／著 白泉社（Ｅヨ・ソ）

みらいには、たいへんなことしかないっていうけれど本当にそうなのかな？
いろんなみらいをかんがえてみると、すごーく楽しくなってくるよ。



『たんだのたんけん』

中川李枝子／さく 山脇百合子／え 学研（９１３ナ・タ）

たんだのたんじょうびに１つうの手紙がとどきました。中に入っていたのは、ふしぎな１まいの地図。さっそく地図をもって、たんけんにしゅっぱつです。



『オタマジャクシのうんどうかい』

阿部夏丸／作 村上康成／絵 講談社（９１３ア・オ）

オタマジャクシのタマは、しっぽがみじかいせいで、かけっこはいつもビリです。みんなはタマのためにできることはないのか、しんけんにかんがえます。



『はなのあなのはなし』

やぎゅうげんいちろう／さく 福音館書店（Ｅヤ・ハ）

おなじはなのあなでも人によって大きさや形がちがう。あなが１こだけのどうぶつもいる。はなのあなって、なんのためにあるのかな？



『さかなのたまご』

内山りゅう／写真・文 ポプラ社（４８７サ）

さかなにとって大切なことは、たまごをうんで子どもをのこすこと。そのために、とっておきの「さくせん」があるのです。



『さるとわに』（ジャータカ物語より）

ポール・ガルドン／さく きたむらよりはる／やく ほるぷ出版（Ｅガ・サ）

わにが木の上のさるを食べようとしますが、いつもあとちょっとのところのにげられてしまいます。



『きえた犬のえ』（ぼくはめいたんてい１）

マージョリー・Ｗ・シャーマット／ぶん マーク・シーモント／え 光吉夏弥／やく 大日本図書（９３３シ・ポ１）

めいたんていネートのもとに犬のえをさがしてほしいといういらいがありました。ネートは、このじけんをかいけつできるのでしょうか？



『ぼくのもものき』

広野多珂子／文・絵 福音館書店（Ｅヒ・ボ）

大すきな「もも」をそだてることになったぼく。ちょっとずつ大きくなっていくのが毎日とっても楽しみで…。



『てんこうせいハワニだった！』

おのりえん／作・絵 こぐま社（９１３オ・テ）

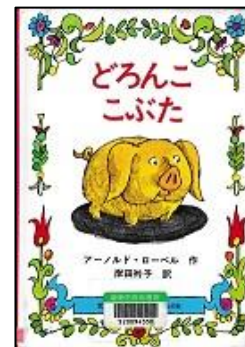
ぼくのクラスにてんこうせいとしてきたのは、ワニだった。でも、ワニだからイスにすわれないし、えんぴつももてない。ワニといっしょのクラスは、オドロキのれんぞくだった。



『どろんここぶた』

アーノルド・ローベル／作 岸田衿子／訳 文化出版局（Ｅロ・ド）

おひやくしょうさんのうちのこぶたが１番すきなことは、やわらかいどろんこの中にしずんでいくこと。でもある日、どろをぜんぶかたづけられてしまいます。



『ポケットのたからもの』

レベッカ・コーディル／文 エバリン・ネス／絵 三木卓／訳 リブリオ出版（９３３コ・ポ）

はじめての学校の日、ジェイは、大すきな友だちをポケットの中にいれて、コソリつれて行くことにしました。でも、すぐにみんなに見つかってしまいます。



『ふらいばんじいさん』

神沢利子／作 堀内誠一／絵 あかね書房（９１３カ・フ）

ふらいばんじいさんは、だれかのやくに立ちたくて、たびに出ることにしました。ところが、出会うのは、ふらいばんを見たことも聞いたこともないどうぶつたちばかりでした。



『ふるやのもり』

瀬田貞二／再話 田島征三／画 福音館書店（Ｅタ・フ）

うまやにしのびこんだうまどろぼうとオオカミ。まっくらの中、それぞれがこわい「ふるやのもり」をかんちがいしたせいで、まさかのじたいに！！



『いえができるまで』

砺波周平／構成・写真 ひさかたチャイルド（５２７イ）

「いえ」ってだれがどうやって、つくっているのかな？ いえができるまでをのぞいてみよう。



『ねぼすけはとどけい』

ルイス・スロボドキン／作 くりやがわけいこ／訳 偕成社（Ｅス・ネ）

時計やに１つだけ「はと」がおくれてとびだす時計がありました。時計をバラバラにしてなおそうとするのですが、うまくいきません。それどころか、ますます時計はおくれてきてしまい…。

